

公益財団法人日本宇宙少年団 平成28年度事業計画書

はじめに

昨年度は、財団設立30周年という節目を迎え、当財団のこれまでの歩みにご尽力いただきました団員、分団関係者、賛助会、関係機関の皆様には心より感謝申し上げます。

当財団が30年間に築き上げてきたことを基盤として、今後も将来を担う青少年を対象に夢や希望を育む社会教育の創造に向けて、全国の地域とともに歩む分団と連携を図り、宇宙開発を応援する公益財団をより一層目指してまいります。

I. 人材育成事業

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

1. スペースキャンプ事業
2. 情報発信(宇宙教育TV、宇宙情報誌等)事業
3. webによる普及啓発事業
4. 将来の特定の活動「2020年宇宙の旅」事業(特定費用準備資金)

1. スペースキャンプ事業

(1) 種子島スペースキャンプ

子ども達の夏休みを利用し、ロケット打上げ射場のある種子島で宇宙・自然・交流をテーマに宇宙開発に関わる学習、自然体験活動、野外学習を行います。宇宙開発に関わる学習では、JAXA種子島宇宙センターの見学や専門家による講義、水ロケットの工作・打上げを行います。また、自然体験活動では、種子島の歴史や自然に触れ、マングローブやウミガメ学習を通じた環境学習を行います。そして、野外学習では夜に天体観測を行い、都会では見ることのできない無数の星空を体感します。

時期： 夏休み期間中(4泊5日)

場所： 種子島全域(西之表市、中種子町、南種子町、種子島宇宙センター他)

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般 60名程度

支援： 種子島支援協議会(鹿児島県 西之表市、中種子町、南種子町)

協力： JAXA種子島宇宙センター(予定)

(2) YAC宇宙レポートin種子島

子どもたちの休業(春・夏・冬休み)期間中に種子島宇宙センター、内之浦宇宙観測所よりロケット打ち上げがある場合は、活動名を「YAC宇宙レポートin種子島」として打ち上げ見学の機会を提供します。

本活動は、打ち上げ前日に専門家と直接あるいはインターネットや電話を使ってロケットや衛星等に関する学習会を行い宇宙や科学技術の理解を深めます。また、本活動では学習したこと、打ち上げ発射場のある種子島や内之浦で体験したことや取材したことを「宇宙新聞」にまとめ、webや冊子「宇宙のとびら」を通して情報発信します。

(3) 内之浦スペースキャンプ

種子島スペースキャンプと同時期に、JAXA内之浦宇宙空間観測所のある鹿児島県内之浦で宇宙・自然・交流をテーマとし、宇宙開発の歴史に触れる学習や自然体験活動、野外学習を行います。宇宙開発の歴史に触れる学習では、JAXA内之浦宇宙空間観測所を訪れ、科学観測ロケットの歴史や科学衛星について学びます。また、自然体験活動では、ウミガメ研究者と産卵観察や放流体験を通して命や環境問題について学習を行います。また、種子島スペースキャンプの仲間とwebを使いお互いの体験活動を報告し合います。

時期： 夏休み期間中(3泊4日)

場所： 鹿児島県内之浦・肝付町

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般 20名～30名程度

協力： JAXA内之浦宇宙空間観測所(予定)

(4) 筑波スペースキャンプ

専門家による特別講義やJAXA筑波宇宙センターの施設見学、初めて出会う仲間とチームを組み宇宙飛行士訓練模擬訓練を行います。模擬訓練を通して宇宙飛行士のミッションを楽しく学びながらコミュニケーション能力等を鍛えます。

時期： 夏休み期間中 1泊2日あるいは2泊3日

場所： JAXA 筑波宇宙センター、

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般 20名～30名程度

(5) 伊豆大島スペースキャンプ

小学生から高校生を対象に、大学生、高校生らによるハイブリッドロケット打ち上げ実験場のある伊豆大島を訪れ、ロケット打ち上げの見学のほかモデルロケット3級ライセンス、4級ライセンスの取得に挑みます。

時期： 3月春休み 2泊3日

場所： 伊豆大島(裏砂漠)

対象： 4月より中学生となる小6以上高校生の団員及び一般 20名程度

(6) アメリカスペースキャンプ

子ども達の夏休みを利用し、NASAジョンソン宇宙センターを訪れ、本物の管制室や宇宙船を見学できるトラムツアーのほか、宇宙飛行士の生活を体験できるアトラクションに参加し英語環境でコミュニケーションやチームワークを鍛えます。壮大なアメリカの宇宙開発に触れることのできる機会を提供します。

時期： 夏休み期間中 5泊7日(予定)

場所： アメリカ ヒューストン、NASAジョンソン宇宙センター

対象： 小学5年生～高校生の団員及び一般

20名～30名程度

2. 情報発信(宇宙教育TV、宇宙情報誌等)

(1) 宇宙教育TV

宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を目的に宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、JAXA宇宙教育センターと連携して制作しているインターネット放送番組です。本番組では当財団職員が番組司会者となり、宇宙開発の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者にも分かり易く紹介します。

(平成 27 年度放送実績:7回/年)

(2) 宇宙情報誌等

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として「宇宙のとびら」の編集協力を行います。また、JAXA宇宙教育センター(発行)及び(公財)日本宇宙少年団(編集協力・団員配布)の連携により、年4回(6月、9月、12月、3月)発行します。

(3) YAC通信の発行

YAC団員向けに、これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団活動紹介や新規設立の分団情報、連載コラム等を「YAC通信」として年4回(6月、9月、12月、3月)発行します。

(4) 団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。

(5) 団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、団員一人一の個人情報適切な管理に努めます。

3. Webによる普及啓発活動

(1)連携団体長会議の開催

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には様々な組織や連携団体との連携協力が不可欠です。そのため、当財団にとってとりわけ全国の宇宙少年団分団とは体系的指導や共通した育成方法の下で子ども達に指導する必要があることから、年1回意見交換や交流の場として「連携団体長会議」を行います。

連携団体長会議では活動委員会で提案する共通プログラムをwebに公開し、分団の参加を促します。

(2)活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集やリーダーのためのガイドブックをwebで公開し、活動の素材提供、安全管理や子ども理解等のノウハウを提供します。

(3)webを通したイベントの取組み

財団主催のスペースキャンプやコンテスト、団員のみならず広く一般を対象とするイベントなど、募集告知や実施結果等をwebを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。

4. 将来の特定の活動(特定費用準備資金)

2020年宇宙の旅

地域に根ざした活動を充実し、同じ目標に向かって成長する全国組織を目指し、目標を達成させるために全体活動プログラムとして「2020年宇宙の旅」事業に取り組み、活動の輪を広げています。本ワークショップを通して知識の向上を目指すとともに、開催地周辺の教育団体や先生方にもご参加いただき、学習プログラムなど、宇宙のホンモノを題材としたさまざまな事業への取り組みを充実させます。

時期： 10月8日(土)～10日(月) 2泊3日

場所： 苫小牧市科学センター、苫小牧市民会館

見学： サケマス孵化場、サケのふるさと館、ALOS校正点、ミール館、
(予定) 王子第一発電所、等

対象： YAC指導員及び一般(参加プログラムによる)

II. 管理運営等

1. 会 員

平成24年8月より公益財団に移行し、約3年が経過しました。公益財団移行後はこれまでの正団員に加え、新たに「家族団員」制度を設けて団員数の向上に努めてきま

した。この家族団員制度がスタートしてから約3年、「家族団員」の加入形態は兄弟のみならず保護者も含め親子で団員となるケースも次第に増えてきています。今年度も入団動機に結びつく活動の推進と退会の減少を目指します。また、団員の活動拠点となる新たな分団結成に向けた活動を積極的に行います。

2. 事務局体制

(1) 要員

団員管理システムの業務は派遣に頼らず専任1名(非常勤)を置き、職員は常勤2名、非常勤1名と昨年同様の体制を置くほか、事業の内容や業務の繁忙具合によってボランティア等、臨時のマンパワー導入を行います。

(2) 内部規程の周知等

昨年度末の内閣府公益認定等委員会事務局による立入検査の結果を受け、適宜規程等の修正を行い周知するほか、役員等に必要な「確認書」の手続きを行います。

(3) 寄附金募集の推進

当財団に対する寄附金については、一層のPR及び獲得に努めます。

以 上